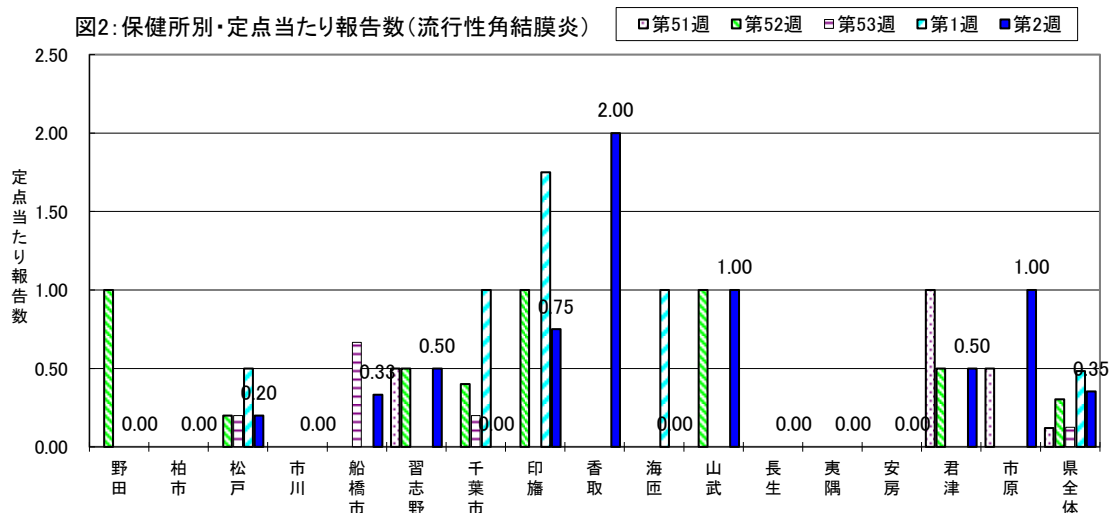
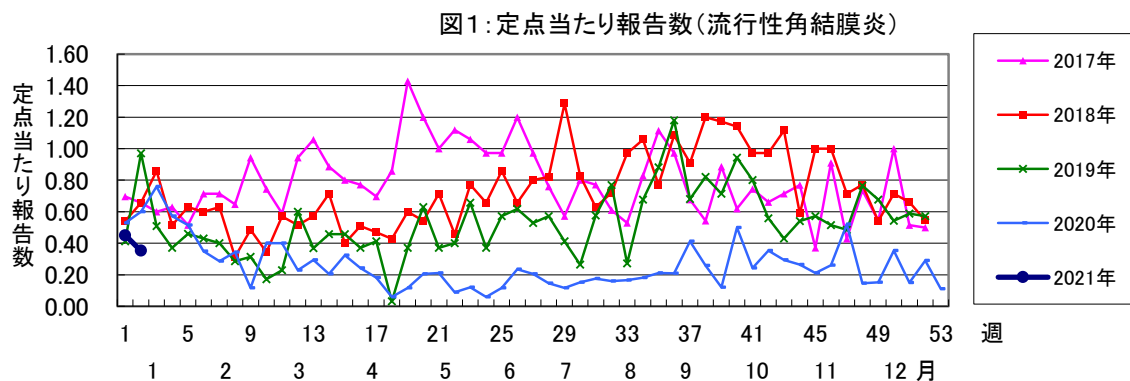


## 【今週の注目疾患】

### 【流行性角結膜炎】

千葉県において 2021 年第 2 週の流行性角結膜炎の定点当たり報告数は、定点当たり 0.35(人)であった(図1)。報告の年齢群別内訳は、20代5例(41.7%)、30代3例(25.0%)、40代1例(8.3%)、50代2例(16.7%)及び70歳以上1例(8.3%)であった。第2週において報告の多い保健所管内は、香取(2.0)、山武(1.0)、市原(1.0)となっている(図2)。



流行性角結膜炎は、一般に「はやり目」と呼ばれている感染症であり、アデノウイルス(8、19、37、53、54、56型など)による疾患である。夏場に多い疾患ではあるが、近年の発生動向は以前より季節変動が明確ではない。症状として感染すると8~14日の潜伏期を経て急に発症し、結膜の充血、眼瞼の浮腫や流涙、ときに耳の前のリンパ節の腫脹を伴う。角膜に炎症が及ぶと透明度が低下し、角膜表面の小さな濁りが数か月から数年残ることがある。結膜炎が出血性となり、出血性結膜炎(エンテロウイルス70型、コクサッキーウイルスA群24型変異株による)や咽頭結膜熱との鑑別を要することがある他、ヘルペスウイルスや、クラミジアによる眼疾患との鑑別が必要である。両眼が感染しやすいが、初発眼の症状がより強いとされている。年齢では1~5歳を中心とする小児に多いが、成人も含み幅広い年齢層にみられる。感染は、職場・学校や家庭などで、ウイルスにより汚染されたティッシュペーパー、タオル、洗面器やドアノブなどに触れるなどして生じる。感染予防の基本は接触感染予防の徹底であり、患者本人やその周囲の者はタオルや点眼液など目に接触するものは個人用とすることが重要である。